

# 授業にピタッ！とデジタル教科書

こんな実践  
あんな実践

歴史

## ④ 現代の学習でのデジタル教科書活用例

～現在・将来の考察、構想につながる学習を目ざして

中野区立中野東中学校 主任教諭 中濱 佑太(なかはま ゆうた)

◆**単元名**：第7章 現代の日本と世界 1節 日本の民主化と冷戦

「③冷たい戦争の始まり」(教科書 pp.260-261)

### ◆**本時の目標**：

- ・第二次大戦の反省から新たに国際連合が発足した一方で、米ソの対立から東西陣営の冷戦が生じたことや、朝鮮戦争、中華人民共和国の成立などの世界の動きを理解する。
- ・国際連合の役割、東西陣営の対立と代理戦争等の事象について、現代の国際情勢との関わりという視点から考察する。

### 《**本時の展開例**》

	学習活動	留意点	デジタル教科書・教材
導入 (10分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2つの資料を提示する。</li> <li>①2022年に日本が国際連合の安全保障理事会の非常任理事国に選出された際の新聞記事</li> <li>②東西冷戦に関する動画 (p.260 資料[2])</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安保理における常任理事国と非常任理事国の違いにふれるとともに、第二次世界大戦後、新たな対立が発生していることをとらえさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スクリーンで動画を再生する。</li> </ul>
展開 (35分)	<p>本時の問い：第二次大戦後の国際社会の課題や、現在の国際社会との関わりはどのようなものだろうか。</p>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際連合の仕組み、東西陣営の対立の構図、中華人民共和国の成立について知る。</li> <li>・冷戦下において、朝鮮戦争、ベトナム戦争等、さまざまな戦争が起こったことを知る。</li> <li>・第二次大戦後の世界について、以下の2点について考察する。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>①平和な世界を実現する上で課題となったこと</li> <li>②現在の国際社会の動きと関連していること</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・p.260 資料[1]で、北大西洋条約機構とワルシャワ条約機構の地理的な広がりを示す。</li> <li>・これまで安保理で拒否権が行使された回数の資料を提示する。</li> <li>・p.264の内容も関連づけ、冷戦下の対立をとらえさせる。</li> <li>・第二次大戦の反省から国際連合が発足したものの、東西陣営の対立と代理戦争が起こったこと、軍事同盟の存在や常任理事国の強大な権限が、現在の国際社会にも大きな影響を与えていることに気づかせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スクリーンに p.260 資料[1]を提示する</li> <li>・スクリーンで p.264 資料[1]の動画を再生する。</li> </ul>
まとめ (5分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習をまとめ、本時の問いへの振り返りを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在の国際情勢とのつながりを意識して記述するよう促す。</li> </ul>	

### ◆指導にあたって：

○本単元は、国際連合の発足や米ソ両陣営の対立、アジア諸国の独立や朝鮮戦争、その後の平和共存の動きなどを、日本の動きと関連させながら扱うことをねらいとしている。その中でも本時では、北大西洋条約機構、安全保障理事会等、生徒がニュースでも耳にする事象も取り上げられている。その位置的な広がりや歴史的な経緯について、デジタル教科書を有効に活用しつつ、現在とのつながりという観点からとらえさせることを目的としている。

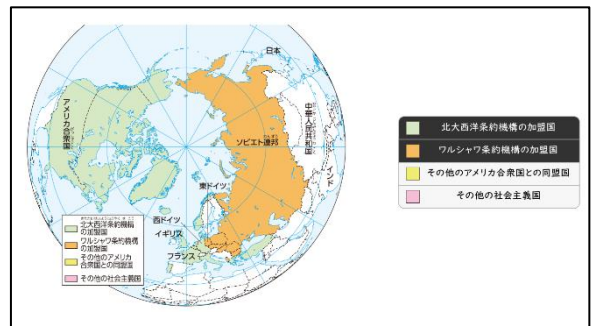
○歴史的分野も大詰めにさしかかる本単元では、ここまで学んできたことと自分たちとのつながりや、現在と未来の日本と世界の在り方について、課題意識をもって考察、構想することが求められている。国際連合の役割が大きく取り沙汰されている昨今の状況の中で、その仕組みと課題について、歴史的な側面のみならず、現在の国際情勢と関連づけて考察することは、歴史的分野の学習を通して現代社会について考えるために非常に重要であろう。本時の学習を、現在、そして将来の世界の姿の構想に繋げるためのステップとしたい。

### ◆デジタル教科書活用のねらい：

○授業の序盤では、p.260 資料<sup>1</sup>を拡大して提示する。

東西両陣営の軍事同盟やその他の勢力について、凡例ごとに表示することが可能であるため、それぞれの位置的な広がりについて具体的にイメージをもたせることができると考えられる。

→デジタル教科書 p.260 資料<sup>1</sup>東西陣営の対立



○東西ドイツの分裂の様子やベトナム戦争の展開については、デジタル教科書の動画コンテンツ (p.260、264 の動画リンク) を利用する。生徒の視覚的な理解を助けるとともに、必要な情報が短時間でまとめられているため、授業後半の考察に充てる時間を確保するために有効であろう。

→デジタル教科書 p.264 の動画リンク



### ◆授業の改善案・さらに活用するポイント：

○国際連合発足後に起こった出来事について、教科書 p.286 の年表資料を基に生徒自身にまとめさせることも考えられる。漠然と平和なイメージでとらえがちな第二次世界大戦終結以後も、さまざまな戦争、対立が存在することを視覚的に実感できるのではないだろうか。

→デジタル教科書 p.286 の年表資料



○本時の授業で考察した内容をもとに、歴史的分野の学習のまとめとして、現在と未来の日本や世界の在り方について考察・構想を行うこともできる。その際、国連などの国際機関、日本政府、そして我々一人一人という多角的な視点から、平和で民主的な社会形成のための方策を考察することが考えられる。